

## 2017 SUPER FORMULA P.MU / CERUMO ・ INGING

### 第2戦 岡山国際サーキット レースレポート

◆ 5月28日(日) < Race2 > 天候：晴れ | コース状況：ドライ

**#1 国本 雄資 9位 / #2 石浦 宏明 2位**



2017年の全日本スーパーフォーミュラ選手権第2戦。前日のレース1よりも晴れ間が多く気温が上昇する中行われた51周で争うレース2で、P.MU/CERUMO・INGINGの石浦宏明が2位表彰台を獲得し、国本雄資は予選で苦戦を強いられたが、9位まで順位を上げてシングルフィニッシュとなった。

前日に行われた30周スプリント勝負のレース1から一転。レース2は周回数が51周に増えたほか、タイヤ4本の交換が義務付けとなった。レース1でのマシンの状況を見直し、チームはまず午前9時20分からの予選に挑む。レース2の予選はQ1・Q2の2セッションによるノックアウト方式で20分のQ1で全19台から10台に絞られる。レース1の予選では19台が一気にタイムアタックになだれ込んだことで、各所でトラフィックが発生し満足いく走りができなかったため、アタックに入るタイミングや前後のマシンとのギャップを考えながら2台はコースイン。しかしタイヤのウォームアップを終えてアタックに入ろうとしたその時に、他のマシンがコースアウトしたことにより赤旗が掲示され、残り時間2分を切ったところでセッションは中断となってしまった。コースインラップを考慮し、残り時間が2分30秒に延長されセッションは再開。2番目にコースインしていった石浦は最終ラップで1分14秒248を記録しトップ通過。一方の国本は赤旗中断の影響を受けてタイヤのピークグリップをうまく使うことができず、1分14秒907というタイム。コントロールラインを通過した時点ではQ2進出圏内の10番手に滑り込んだが、その後3台が国本のタイムを上回り、最終的に13番手でQ2進出を逃すこととなった。

10分間で争われたQ2では石浦は先頭でコースイン。他のマシンとの間隔をコントロールしながらアタックに入ると、最終ラップで本日唯一の1分13秒台となる1分13秒918をマークし、得意とする岡山で今シーズン初のポールポジションを獲得した。

決勝レースは午後 2 時 25 分にスタート。ポールシッターの石浦はわずかにホイールスピンが多く後続の集団に飲み込まれそうになったが、1 コーナーまでの巧みな位置取りなどでトップに踏みとどまった。一方の国本は抜群のスタートで 8 番手あたりまでポジションアップしたが、集団の中でペースが乱れるのを避けてオープニングラップを終えるところで義務付けられているピット作業を消化。他にも 7 台ほどが一気にピットになだれ込んだこともあり、ピットアウト後は 13 番手に戻って改めて追い上げを始めることになったものの、チームの迅速なピット作業が功を奏し上位陣がピット作業へと入るたびにポジションアップ。38 周目には 9 番手となり、ポイント獲得まであとわずかに迫ったところで、他車のアクシデントによりセーフティカーが入ることに。42 周を終えてリスタートが切られる場面がオーバーテイクのチャンスだったが、ここでの追い抜きは叶わずそのままチェッカーを受けた。惜しくもポイント獲得はならなかったが、9 位に順位を上げてレースを終えた。



オープニングラップの混乱の中でトップをキープした石浦は、他のマシンにペースを乱されることなく快走を続けた。序盤にタイヤ交換を済ませたマシンとの間隔を測りながら、34 周目にピットイン。1 台にかわされたが 2 番手でコースに復帰した。復帰直後、タイヤが温まるまでは 3 番手のマシンに背後に迫られたが、これを見事にブロックしてポジションを死守。タイヤが温まってからは 3 番手を引き離し、ファステストラップを塗り替える勢いでトップを走るマシンに追いついていった。セーフティカーが入った後のリスタートから更にペースを上げて、その差が 1 秒を切るところまでタイヤの消耗が進んでいる相手のマシンを攻め立てる。残り 3 周のところではコーナーで並びかけるほどの接近戦となったが、決定的なチャンスを作れずフィニッシュ。ポジションは下げることとなったが、白熱したレース展開をみせ堅実に 2 位表彰台を獲得した。



### ドライバー／#1 国本 雄資

「予選は赤旗の影響もありましたが、全体的にグリップ感が少なく、パフォーマンスも少し低かったかなと思います。スタートでは 3 つか 4 つぐらいポジションを上げられましたが、集団の中ではなくスペースのあるところで走りたかったのですぐにピットインしました。いろいろとクルマのセッティングを試してみましたが、3 日間を通してあまりグリップ感がなかったですね。1 台抜けばポイントが獲れることが分かっていたので最後まで諦

めずにプッシュしましたが、最後まで順位を入れ替えることはできませんでした。セッティングや走り方など、いろいろ模索した 3 日間でしたが、なかなかいいフィーリングを得られませんでした。富士ではいい結果を残せるよう、インターバルの間にチームと話し合っただけで次戦に臨みたいと思います」

## ドライバー／#2 石浦 宏明

「今日は悔しいですが、(優勝した)関口選手に完敗です。スタートでトップに立てたら、自分のペースでプッシュしていくという作戦でしたが、先にピットに入った関口選手のほうがラップペースが良いことは無線で聞いていて、100%のプッシュはしていましたが少しずつ負けている状況というのも分かっていました。それでも、やれるだけやるしかないとプッシュを続けました。終盤のセーフティカー明けでも、1周目にタイヤを換えたとは思えない相手のペースでした。今日は完敗でしたが、次戦では違う展開に持っていけるよう、チーム全体で挽回するために頑張りたいと思います」



## 監督／立川 祐路



「石浦は、まずは予選がうまくいきましたね。昨日からクルマもアジャストして、それが機能した形でQ1・Q2ともにいいタイムを出してくれました。昨日の段階ではポールポジションが獲れるとは思っていませんでしたが、レースに向けてはすごくいい位置からスタートできることになりました。レースでは、関口選手に比べて少しペースが足りなかった。勝てなかったのは残念ですが、戦略を含めて全員がやれることはやったと思います。

国本に関しては今週末を通して苦しい戦いになってしまいました。今日もできる限りの挽回はしましたが、ポイント獲得まであとわずかで届かなかったのは残念です。2人とも、本来のポテンシャルはこんなものではないので、次戦は2台揃って優勝争いできる状態にできればと思います。気持ちを切り替えて富士に臨みます」

## 総監督／浜島 裕英

「残念な結果になりましたが、今回は関口選手のクルマが速かったですね。最後のタレもあまりなかったように思います。我々が違う戦略をとったとしてもつらい戦いになったかもしれないですね。石浦選手も頑張っ、ピットアウト直後のロッテラー選手の攻撃をかわしたことで、終盤に逆転を狙っていったチャレンジは良かったので、これを次につなげたいですね。表彰台には上がりましたが、みんな満足はしていません。もう一歩前に進めるよう、頑張っていきたいと思います」



【Race 2 正式予選結果】(上位 10 台抜粋)

Pos.	No.	Driver	Type	Car	Time
1	2	石浦 宏明	TOYOTA R14A	P.MU/CERUMO・INGING SF14	1' 13.918
2	4	山下 健太	TOYOTA R14A	FUJI×raffinee KONDO SF14	1' 14.104
3	19	関口 雄飛	TOYOTA R14A	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF14	1' 14.134
4	36	アンドレ・ロッチェラー	TOYOTA R14A	VANTELIN KOWA TOM'S SF14	1' 14.536
5	15	ピエール・ガスリー	Honda HR-414E	TEAM MUGEN SF14	1' 14.566
6	18	小林 可夢偉	TOYOTA R14A	KCMG Elyse SF14	1' 14.583
7	41	伊沢 拓也	Honda HR-414E	DOCOMO DANDELION M41Y SF14	1' 14.584
8	8	大嶋 和也	TOYOTA R14A	SUNOCO TEAM LEMANS SF14	1' 14.585
9	37	中嶋 一貴	TOYOTA R14A	VANTELIN KOWA TOM'S SF14	1' 14.596
10	64	中嶋 大祐	Honda HR-414E	TCS NAKAJIMA RACING SF14	1' 15.431
13	1	国本 雄資	TOYOTA R14A	P.MU/CERUMO・INGING SF14	1' 14.907

【Race 2 正式決勝結果】(上位 10 台抜粋)

Pos.	No.	Driver	Type	Car	Time / Behind
1	19	関口 雄飛	TOYOTA R14A	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF14	1:09' 02.975
2	2	石浦 宏明	TOYOTA R14A	P.MU/CERUMO・INGING SF14	0.408
3	36	アンドレ・ロッチェラー	TOYOTA R14A	VANTELIN KOWA TOM'S SF14	2.586
4	7	フェリックス・ローゼンクヴィスト	TOYOTA R14A	SUNOCO TEAM LEMANS SF14	3.252
5	18	小林 可夢偉	TOYOTA R14A	KCMG Elyse SF14	5.922
6	4	山下 健太	TOYOTA R14A	FUJI×raffinee KONDO SF14	8.034
7	15	ピエール・ガスリー	Honda HR-414E	TEAM MUGEN SF14	10.233
8	16	山本 尚貴	Honda HR-414E	TEAM MUGEN SF14	14.287
9	1	国本 雄資	TOYOTA R14A	P.MU/CERUMO・INGING SF14	17.087
10	40	野尻 智紀	Honda HR-414E	DOCOMO DANDELION M40S SF14	17.732

ドライバースタンディング

(第 2 戦 Race2 終了時点/上位 5 名抜粋)

Pos.	No.	Driver	Point
1	36	アンドレ・ロッチェラー	12
2	37	中嶋 一貴	11
3	16	山本 尚貴	10.5
4	2	石浦 宏明	10.5
5	19	関口 雄飛	10
6	1	国本 雄資	6

チームスタンディング

(第 2 戦 Race2 終了時点/上位 5 チーム抜粋)

Pos.	Team	Point
1	VANTELIN TEAM TOM'S	22
2	P.MU/CERUMO・INGING	15.5
3	TEAM MUGEN	11.5
4	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL	10.5
5	KONDO RACING	5.5